

1 情勢報告

須崎市の認定農業者連絡協議会が新体制で出発



5月25日に、須崎市認定農業者連絡協議会総会が行われ、事業実績・収支決算、事業計画・収支予算が承認され、新役員が決まりました。新会長から「勉強しながら、皆さんとともにやっていきたい」との決意が述べられました。

総会后、宿毛市の大串生美さんの講演が行われ、「従業員との腹を割った話ができたら事業がうまくいきました」などの話を聞き、意見交換等もできました。

振興センターは、これからも関係機関とともに認定農業者の経営改善計画作成支援や経営感覚を磨くための視察・研修会等の情報提供を行っていきます。

津野山地域の農業振興に向けて活動計画を検討

JA津野山管内農業改良普及推進協議会



6月2日、津野山地域の農業者代表、JA津野山、梶原町、津野町の委員さんに集まってお話し、振興センターから産業振興計画、普及指導計画等、そしてJA津野山から営農連絡協議会プロジェクトチーム会活動計画について説明し、意見交換を行いました。農業者からは「津野山米ナスの良さを知ってもらいたい、ハナニラも増えてきたので、販売がんばってもらいたい」などの意見をもらいました。

今後も、出された意見などを活かして、地域の農業振興に向けて計画的な活動を進めていきます。

芳生野百石営農生産組合の米ナス初出荷に向けて現地講習会開催



出荷規格の勉強

6月10日、こうち型集落営農に取り組む「芳生野百石営農生産組合」のハウスで、組合員を対象に米ナス講習会を開催しました。

まず初出荷に向けて、JAの営農指導員、販売課の職員が、収穫・選別・箱詰めのポイントについて説明しました。続いて振興センターから、摘葉の方法などについて、実際に作業しながら説明しました。

参加した8名の組合員は、説明終了後、実技を兼ねて早速ハウス内に散らばり、摘葉や収穫などの作業を行い、講習の内容を確認していました。

今後も振興センターは、JAと協力しながら巡回と実地指導による米ナス栽培技術の定着を進めていきます。

情勢報告

新規就農者との交流盛り上がる

JA土佐くろしお管内新規就農者激励会



6月10日、JA土佐くろしお管内の新規就農者激励会が須崎4Hクラブ主催で葉山総合グラウンドにおいて開かれました。

当日は、新規就農者、4Hクラブ員、青年農業士、須崎市・中土佐町・農業共済・JA土佐くろしお・振興センター職員等約50名が参加し、農協組合長・振興センター所長の激励の挨拶、4Hクラブ会長の歓迎挨拶、記念品贈呈、新規就農者代表挨拶などの後、ソフトボールで汗を流し交流を図り、夕方の懇親会でさらに盛り上がりました。管内の今年度の新規就農者は16名ですが、当日の参加は10名でした。

今後も、振興センターでは関係機関と連携して新規就農者への支援を進めていきます。

中土佐町大野見地区の農業振興に向けて活動計画を検討

JA四万十管内大野見地区農業改良普及推進協議会



6月22日、中土佐町大野見地区の農業者代表、JA四万十、中土佐町の委員さんに集まってお話し、委員さんの現地ほ場視察後、振興センターから産業振興計画、町・農協から営農協議会の活動計画等を説明し、意見交換を行いました。

農業者からは「大野見米のブランド化にむけて、目標や販売方法についてははっきりすべき」と「後継者がいない。あと何年農業できるか」などの意見が出て、農協からは「大野見の農業を考える会」を開催し、米の栽培・販売や地域で助け合う仕組みづくり等について意見交換を行っていききたいなどの声がありました。

振興センターでは、今後も関係機関と連携し、出された意見などを活かして、地域の農業振興に向けて計画的な活動を進めていきます。

キュウリの「エコシステム栽培」と収量向上に向けて

JA土佐くろしおキュウリ部会臨時総会



JA土佐くろしおキュウリ部会は、栽培履歴記帳や高知県版GAPを実践していましたが、6月17日の臨時総会において、「エコシステム栽培」へ取り組むことを決定しました。

臨時総会では、エコシステム栽培導入に対する質疑が多く出されましたが、多くの生産者がこれまでの栽培方法と大きな違いがないことから、参加者全員の賛成をもって可決されました。

振興センターからは、「キュウリの生理生態からみた管理」をテーマにした勉強会を開催し、生産者自身の温度管理や樹勢管理などについての確認を行いました。

今後も、振興センターでは関係機関等と連携し、「エコシステム栽培」への取り組みや、栽培技術・収量・品質の向上に向けて、支援を進めていきます。

情勢報告

ニラの株養成技術等の向上により収量アップを目指す

J A土佐くろしおニラ部会現地検討会（まとまりのある園芸産地育成事業）



6月18日、中土佐町久礼及び須崎市多ノ郷地区の篤農家ほ場で、ニラ部会現地検討会が開催されました。

現地検討会では、篤農家からこの時期の株養成等の管理作業の着眼点等を、振興センターからは、超長期肥効肥料の現地実証成果、栽培管理技術の要点等を説明しました。出席者からの質疑応答も多く、篤農技術の移転・普及も一定できました。

振興センターでは、今後とも、篤農家、J A担当と共に収量アップに向け、計画的に篤農家ほ場における現地検討会を開催し、農家所得の向上につなげます。